

共同研究

二〇一一年一月一日～二〇一二年三月三十一日

文明と身体

〔研究代表者〕 牛村 圭、幹事 劉 建輝

〔共同研究員名〕

岩崎徹、大東和重、加藤めぐみ、川本玲子、小堀馨子、佐伯順子、竹村民郎、永井久美子、西原大輔、平松隆円、古川優貴、山中由里子、古田島洋介、白幡洋三郎、稲賀繁美、井上章一、フレデリック・クレインス、郭南燕、堀まどか、楊爽

〔海外共同研究員名〕

眞嶋亜有

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一二年一月六日

稲賀繁美「ブリコラージュとスクラプチャー」

劉 建輝「考える『身体』―日本文化小論」

井上章一、劉 建輝「外から見る日本人の『身体』認識…

日中比較文化論の視点から」

井上章一「ヌードとパンツと家父長制 上野千鶴子のおっ

さん観をめぐる」

討論

〈第三回研究会〉

二〇一二年三月三〇日

岩崎 徹「オペラ『ミカド』の日本での上演史をめぐる一

考察」

古川優貴「博士論文『うねる、とけあう…ケニア、初等聾

学校の子供の体の動きを事例とした“共在”をめぐる

人類学的研究』の概要とケニアフィールドワーク報告」

討論

仏教からみた前近代と近代

〔研究代表者〕 末木文美士、幹事 井上章一

〔共同研究員名〕

阿部仲麻呂、新井菜穂子、池内恵、大谷栄一、吉永進一、
金泰勲、田中悟、陳継東、中島岳志、西村玲、ジェームズ・バスキンズ、シルヴィオ・ヴィータ、藤井淳、藤本龍児、前川健一、米田真理子、Orion KLAUTAU、林淳、山田奨治、稲賀繁美、小松和彦、徳永誓子

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一一年一月二六日

「討論『妙貞問答』出版について」「国際研究集会報告と反省」「論文集編纂・出版について」

怪異・妖怪文化の伝統と創造―研究のさらなる飛躍に向けて―

〔研究代表者〕 小松和彦、幹事 山田奨治

〔共同研究員名〕

アダム・カバット、今井秀和、香川雅信、木場貴俊、小林健二、近藤瑞木、齋藤真麻理、清水潤、志村三代子、佐々木高弘、高橋明彦、堤邦彦、常光徹、徳田和夫、永原順子、安井眞奈美、正木晃、横山泰子、飯倉義之、プラック・トゥ・アブラハム・ジョージ、中野洋平、徳永誓子

〔海外共同研究員名〕

マーク・オンブレロ、魯成煥、朴銓烈、マティアス・ハイエク

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一一年一月二七日

木場貴俊「一七世紀の『怪異』認識について」
常光 徹「風説と怪異・妖怪―流行病と予言獣―」

〈第五回研究会〉

二〇一二年二月二五日

東映京都撮影所にて東映怪談映画資料見学
鷺谷 花「戦後内田吐夢作品における〈甘粕正彦〉の亡霊」

志村三代子「東映の異端・石井輝男―『恐怖奇形人間』

(一九六九年)を中心に―)

生命文明の時代を創造する

(研究代表者 安田喜憲、幹事 フレデリック・クレインス)

〔共同研究員名〕

赤池学、石田秀輝、石原三千代、岩田泰、上野景文、上田善隆、戎晃司、大塚邦明、大橋力、小佐野峰忠、加藤忠哉、神谷昌岳、河合徳枝、岸本吉生、北島正一、熊野英介、河野博子、小林俊安、佐藤文一、佐藤真弓、塩谷崇之、塩谷治子、椎川忍、篠上雄彦、清水昭、下原勝憲、秦陽一、杉田定大、菅節子、園部信幸、竹林征三、竹林征雄、田中章義、田中克、谷口正次、鶴謙一、十市勉、中井徳太郎、中山厚、永里善彦、永野博、長野麻子、名越万里子、新妻弘明、仁科エミ、畠山重篤、羽田肇、平川新、平野秀樹、藤崎憲治、古沢広祐、本田学、前田泰宏、眞下正樹、松田美夜子、南敦資、三宅曜子、宮内博美、宮本昌宏、村田泰夫、村山茂樹、森勇介、森鐘一、森勇一、森本英香、山根正義、吉澤保幸、吉田小百合、笠谷和比古

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一一年一〇月八日

安田喜憲、中村時広、野志克仁 開会挨拶

畠山重篤 「東日本大震災と森・里・海連環」

菅 康弘 「『坂の上の雲』と明治を生きた主人公たち」

パネルディスカッション一 「坂の上の雲とこれからの幸福のかたち」

進行…石田秀輝

パネリスト…鈴木一義、中井徳太郎、畠山重篤

パネルディスカッション二 「これからの幸福論〜明治維新

から東日本大震災までとこれからの日本」

進行…吉澤保幸

パネリスト…田中章義、丹治富美子、吉岡幸雄、太田浩

史、若松進一

二〇一一年一〇月九日

三好幹二 開会挨拶

畠山重篤 講演

畠山重篤、安田喜憲、若松進一 鼎談 「森里海で生きる」
南予の中高生と語る―南予のくらしに確かな未来がある―

進行…長野麻子

パネリスト…後藤健市、齊藤徹、和田てつ子、高橋司

二〇一一年一〇月一〇日

視察

〈第四回研究会〉

二〇一一年一月五日

安田喜憲 挨拶

竹林征三「福島原発事故からの教訓―環境防災と風土工学

―

篠上雄彦「東日本大震災と鉄鋼業の取り組み〜ものづくり

とエネルギー問題を考える」

宮本昌宏「復興支援ボランティア活動と企業の取り組みの

一例〜

戸田順博「自然界の法則に学ぶ三つの浄化〜自分の健康は

自分で守る 自分の病気は自分で治す〜

二〇一一年一月六日

清水 昭「健やかに暮らすために―糖尿病と脳梗塞、生活

習慣病との深い関係」

安永大三郎「二一世紀養蚕と山間地の活性化」

テーマ…養蚕と山間地・農村の活性化

一．蚕は伝統産業でしたが、二一世紀最先端の産業となり

得ることです。

二．豊かな農村づくり…農村は豊かになれる

三．新しい健康社会の実現

村田泰夫「T P Pと日本農業 市場開放と国内農業の両立」

総合討論

〈第五回研究会〉

二〇一二年一月八日

安田喜憲 挨拶

秦 陽一「『まほろばの夢』森林文化協会誌（グリーンパ

ワー）森林文化二〇〇四年五月〜〇五年四月号、連載

随筆一二回を發表」

永里善彦「国際競争力強化に高度人材育成を」

菅 節子「地方でこそ出来る若者の人間力教育〜原点回帰

〜

北島正一「森里海連環と地球的課題を三世代にどう伝える

か〜九州地域からの報告」

二〇一二年一月九日

田中 克「森里海連環学の原点を稚魚の生態に学ぶ〜汽

水・干潟域再生の今日的意義」

藤崎憲治「バイオミミクリー革命と昆虫」

古沢広祐「地球サミット二〇年のいま〜リオ十二〇と生命

文明転換への道」

岩田 泰「二〇一二年韓国・麗水（ヨス）万博日本館につ

いて」

〈第六回研究会〉

二〇一二年三月二四日

安田喜憲 挨拶

司会…仁科エミ

森 勇一「ムシの考古学—安田先生の環境考古学に学ぶ

—」

戎 晃司「巨木・銘木の救済活動についての提案」

竹林征三「風土工学震災復興論」

司会…小佐野峰忠

上野景文「小さなカミ、大きな神」

塩谷崇之「日本人の信仰と森里海の繋がり」

安田喜憲「研究成果のとりまとめについて」

夢と表象—メディア・歴史・文化

（研究代表者 荒木 浩、幹事 マルクス・リュッターマ

ン）

〔共同研究員名〕

安東民兒、池田忍、入口敦志、上野勝之、河東仁、加藤悦

子、高橋文治、丹下暖子、林千宏、平野多恵、福島恒徳、
藤井由紀子、松蘭斉、松本郁代、室城秀之、木村朗子、倉
本一宏、早川聞多、伊東貴之、郭南燕、榎本涉、楊曉捷、
箕浦尚美、中川真弓

〔海外共同研究員名〕

Jörg B. QUENZER、李育娟、Ive COVACI

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一一年一月三日

荒木 浩「所外研究会開催の趣旨について」

松蘭 斉「中世の日記と夢—『看聞日記』を中心に」

小林あづみ「『明恵上人夢記』目録作成を通して

二〇一一年一月四日

加藤悦子「『春日権現験記絵』にみられる夢の造形につい

て」

研究講演

奥田 勲「明恵上人夢記をめぐる—何を書き、何を書か

なかったか—」

〈第五回研究会〉

二〇一二年一月二一日

丹下暖子「女房日記における〈夢〉の諸相」
箕浦尚美「本地物語における申し子譚の位相」

二〇一二年一月二二日

室城秀之「夢の描きかた」

ディスカッション及び本年度研究会のまとめと来年度計画
について

デジタル環境が創成する古典画像資料研究の新時代

〔研究代表者 楊 曉捷、幹事 小松和彦〕

〔共同研究員名〕

赤間亮、石川透、海野圭介、大谷節子、大向一輝、大場利
康、小峯和明、千本英史、田良島哲、藤原重雄、荒木浩、
山田奨治、早川聞多、ギャリー・ジェームズ・ヒッキー、
森洋久

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一一年一月二六日

山田奨治「文化財デジタル複製の動向と概念」

大場利康「国立国会図書館における古典籍資料デジタル
化」

二〇一一年一月二七日

赤間 亮「古典籍におけるデジタル『画像』時代のメタ

データ」

情報交換

〈第三回研究会〉

二〇一二年二月四日

Lawrence MARCEAU

ギャリー・ジェームズ・ヒッキー「展示会とコンピュー

ターヴァーチャル美術館―二〇〇六年メルボルン大学

での実例学習」

大向一輝「Linked Open Dataと美術館・博物館メタデー

タ」

二〇一二年二月五日

海野圭介「電子資料館事業の現状と課題」

情報交換、今後の予定

仕掛けと概念…空間と時間の日仏比較建築論

〔研究代表者 フィリップ・ボナン、幹事 稲賀繁美〕

〔共同研究員名〕

Cécile ASANUMA-BRICE、阿部順子、江口久美、加藤邦男、

Benoît JACQUET 千代章一郎、Manuel TARDITS 田路貴浩、土居義岳、西田雅嗣、波嵯栄ジェニフアしょう子、Sylvie BROSSÉAU、Christine VENDREDI-AUZANNEAU、Jacques PEZEU-MASSABUAU、松原康介、松本裕、三宅理一、渡邊一正、朴美貞

〔海外共同研究員名〕

Marc BOURDIER、Nicolas FIEVE、Corinne TIRY-ONO

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一一年一〇月二十九日

ミュリエル・ラディック「日本空間に関する美的語彙若

干：序破急、廢墟、無常」

デイスカッション

セシル・ビリース「ふたつの語彙注釈検討『長屋』」

西田雅嗣「ふたつの語彙注釈検討『母屋』底」

フィリップ・ボナン「日本空間性の語彙とは何か：第二

部：『空間性』とは何か？」

デイスカッション

〈第四回研究会〉

二〇一一年一二月一七日

Benoît JACQUET 「参道」

江口久美

オーギュスタン・ベルク「日本の空間性の語彙要素：場

縁、風土」

千代章一郎「語彙集収録予定注記に関する報告『復興』」

松原康介「語彙集収録予定注記に関する報告『a preceiser』」

西田雅嗣「語彙集収録予定注記に関する報告『家』」

〈第五回研究会〉

二〇一二年二月一日

Marc BOURDIER 「日本の空間性の語彙要素」

松原康介「防災（危機管理）」

渡邊一正「農家」

Manuel TARDITS 「地区」

阿部順子「団地」

Marie-Elisabeth FAUROUX 「吹き抜け屋台」

近代日本における指導者像と指導者論

（研究代表者 戸部良一、幹事 瀧井一博）

〔共同研究員名〕

五百旗頭薫、河野仁、楠綾子、黒澤文貴、佐古丞、佐藤卓

己、庄司潤一郎、武田知己、中西寛、奈良岡聡智、野中郁次郎、畑野勇、波多野澄雄、小川原正道、猪木武徳、牛村圭、鈴木貞美、松田利彦、フレデリック・ディキンソン

〔海外共同研究員名〕

黄自進

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一一年一〇月一五日

瀧井一博「知の政治家の系譜―伊藤博文と原敬をつなぐもの―」

フレデリック・ディキンソン「戦間期世界における政治指導の課題―浜口雄幸を中心に―」

二〇一一年一〇月一六日

ロー・ダニエル「韓国の大統領制―共和政治の渦巻きと指導者像の追求―」

畑野 勇「陸海統合における軍部大臣のリーダーシップの日米比較」

〈第四回研究会〉

二〇一二年一月二八日

黄 自進「蒋介石のリーダーシップ―満州事変前後の対日

政策を中心として―」

武田知己「日本の対英工作一九三六―一九四一―日英開戦前の重光葵と加納久朗―吉田茂・重光葵・加納久朗を中心に―」

二〇一二年一月二九日

佐藤卓己「論壇における指導力の研究―『世界』と岩波文化を中心に―」

楠 綾子「冷戦と知的コミュニティ」

徳川社会と日本の近代化―一七―一九世紀における日本の文化状況と国際環境―

〔研究代表者 笠谷和比古、幹事 佐野真由子〕

〔共同研究員名〕

芳賀徹、脇田修、上村敏文、磯田道史、岩下哲典、伊藤奈保子、魚住孝至、大川真、加藤善朗、上垣外憲一、郡司健、小林龍彦、小林善帆、武内恵美子、竹村英二、高橋博己、谷口昭、長谷川成一、原道生、平井晶子、平木實、平松隆円、藤實久美子、前田勉、真栄平房昭、宮田純、宮崎修多、森田登代子、横谷一子、横山輝樹、和田光俊、辻垣晃一、フレデリック・クレインス、瀧井一博

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一一年一〇月二二日

宮田 純「本多利明の経済政策思想」

長谷川成一「藩領における植生の復元と森林利用」

二〇一一年一〇月二三日

辻垣晃一「森幸安地図の継承について」

和田光俊「日本における西洋天文学の受容と改暦―寛政の

改暦について―」

横山輝樹「惣領番入制度、その成立と意義―吉宗期の武芸

奨励と関連して―」

総合討論

〈第五回研究会〉

二〇一一年一二月一〇日

平井晶子「東北農村における家の変容」

劉 岳兵「勝海舟の中国認識について」

二〇一一年一二月一一日

横谷一子「徳川時代における高齢者の健康管理について―

香月牛山著『老人必用養草』に見る高齢者の健康につ

いて」

佐野真由子「米国総領事ハリスの將軍拜謁と『体食』問題

をめぐって」

菅 良樹「大阪定番就任者の基礎的考察」

総合討論

〈第六回研究会〉

二〇一二年二月四日

門脇朋裕「法令伝達から見た幕藩関係―盛岡藩を中心に」

高橋博己「文人の京都、十八世紀京都の知と感性―皆川淇

園の場合」

二〇一二年二月五日

竹村英二「儒学／漢学と明治初期の知識人」

伊東貴之「明清交替と東アジア世界―清朝の王権理論と朝

鮮・日本におけるプロト・ナショナリズムの生成」

芳賀 徹「十八世紀京都の詩と絵画」

総合討論

「東洋美学・東洋的思惟」を問う…自己認識の危機と将来へ

の課題

（研究代表者 稲賀繁美、幹事 瀧井一博）

〔共同研究員名〕

足立元、伊藤奈保子、今井祐子、鵜飼敦子、大嶋仁、小田部胤久、金田晉、河田明久、衣笠正晃、木下長宏、金惠信、クリチャー・オリヴィエ、呉孟晋、酒井順一郎、佐々木健一、島本流、鈴木禎宏、戦暁梅、千葉慶、テレングト・アイトル、礪波護、西原大輔、西楨偉、芳賀徹、畠山香織、濱下昌宏、林洋子、範麗雅、平川祐弘、平野共余子、平松秀樹、藤原貞朗、松原知生、マリアーヘス・デ・ブラダリビセンテ、ミシェル・ダルシエ、武藤秀太郎、村井則子、安松みゆき、李建志、陸偉榮、劉岸偉、古田島洋介、橋本順光、劉建輝、パトリシア・フィスター、佐野真由子、井上章一、牛村圭、鈴木貞美、細川周平、磯前順一、山田奨治、マルクス・リュッターマン、堀まどか、小山周子、長門洋平、陳凌虹、吉本弥生、李偉、朴美貞、岡本貴久子

〔海外共同研究員名〕

大橋良介

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一二年一月二〇日

下川歌史「混浴禁止令のさまざまと混浴絵ハガキの流行」

討論

彬子女王「英国における日本美術研究の萌芽―古筆了任を中心に」

討論

前崎信也「近代日本の窯業技術がスタジオ・ポタリー運動に与えた影響について」

討論

帝国と高等教育―東アジアの文脈

(研究代表者 酒井哲哉、幹事 松田利彦)

〔共同研究員名〕

浅野豊美、飯島渉、石川健治、石川裕之、片岡龍、川尻文彦、通堂あゆみ、中生勝美、松田吉郎、米谷匡史、瀧井一博

〔海外共同研究員名〕

呉密察、白永瑞、金昌祿、崔鍾庫、劉書彦

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一一年一〇月一日

松田利彦「京城帝国大学の創設―教員人事を中心として―」

通堂あゆみ「京城帝国大学医学部の『植民地的』特徴」

総合討論

瀧井一博「幣原坦研究の課題と可能性」

石川健治「『京城』の清宮四郎―戦後憲法学の修業時代―」

〈第五回研究会〉

二〇一一年二月三日

鈴木貞美「創設期帝国大学の学部編制の特徴―その諸問題

と東アジアへの拡大をめぐる―」

酒井哲哉「研究所という装置―学知における戦争と脱植民

地化」

松田吉郎「台北帝国大学文政学部南洋史学の成立と展開」

石川裕之「国立ソウル大学校医科大学に見る植民地高等教育

育経験者の役割と『遺産』」

浅野豊美「京城帝国大学からソウル大学へ―ミネソタ大学

とアメリカの官民経済技術協力の思想的起源」

〈第六回研究会〉

第四二回国際研究集会「帝国と高等教育―東アジアの文脈

から」

二〇一二年二月一日

猪木武徳 挨拶

松田利彦「比較植民地大学史の可能性／不可能性」

セクション一 植民地大学の制度

歐 素瑛「台北帝国大学と台湾学研究」

鈴木貞美「創設期帝国大学の学部編成の特徴―その諸問題

と東アジアへの拡大をめぐる―」

通堂あゆみ「京城帝国大医学部の機能と構造―医局講座制

について」

討論・松田利彦

セクション二 植民地大学の学知

金 昌祿「尾高朝雄と植民地朝鮮」

全 京秀「京城学派の人骨研究と戦時人類学・今村豊の南

柯一夢(?)」

中生勝美「台北帝国大学文政学部の土俗・人種学教室にお

けるフィールドワーク」

討論・酒井哲哉

セクション三 植民地大学の機能

鄭 肯植「韓国における近代法学図書館の形成と京城帝大

東洋法学書の特徴」

鄭 駿永「血の人種主義と植民地医学―京城帝大法医学教

室の血液型研究」

鄭麗玲「戦時期台北帝国大学の『学生生活調査』」

王泰升「植民地近代性の法学・日本植民地統治下台湾の

近代法学知識の発展（一八九五—一九四五）」

討論・瀧井一博

二〇一二年二月一二日

セッション四 植民地大学の遺産

崔鍾庫「ソウル大学における京城帝大法学の遺産」

石川裕之「国立ソウル大学校の発展過程にみる植民地高等

教育の『遺産』—医科大学における教員組織の変化に

注目して—

松平徳仁「植民地主義と立憲主義のはざままで」

大浜郁子「琉球大学における『日本復帰』への道程」

討論・浅野豊美

総合討論・有馬学、飯島渉、劉建輝

総括・酒井哲哉

「心身／身心」と「環境」の哲学—東アジアの伝統的概念の
再検討とその普遍化の試み—

（研究代表者 伊東貴之、幹事 榎本 渉）

〔共同研究員名〕

恩田裕正、小島毅、林文孝、松下道信、水口拓寿、青木隆、垣内景子、片岡龍、黒住真、桑子敏雄、河野哲也、関智英、銭国紅、高橋博巳、田尻祐一郎、陳継東、土田健次郎、手島崇裕、永富青地、西澤治彦、長谷部英一、横手裕、李梁、末木文美士、鈴木貞美、ジョン・ブリン、劉建輝

〔海外共同研究員名〕

張翔、陳健成、フレデリック・ジラー

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一一年一月一九日

長谷部英一「中国医学における身体と精神」

徐興慶「日中の思想文化の比較研究を考える—一七〇

一九世紀に越境した知識人を中心に—」

〈第五回研究会〉

二〇一二年一月二一日

西澤治彦「跪拜の誕生とその変遷」

高橋博巳「東アジアの学芸共和国—発端・興隆（交流）・

成熟—」

打ち合わせ

東アジア近現代における知的交流―概念編成を中心に

〔研究代表者〕 鈴木貞美、幹事 伊東貴之

〔共同研究員名〕

浅岡邦雄、阿毛久芳、荒川清秀、荒木正純、有馬学、磯部敦、井上健、今村忠純、岩月純一、王曉葵、岡田建志、梶山雅史、金子務、上垣外憲一、川島真、川尻文彦、衣笠正晃、木村直恵、権藤愛順、佐藤一樹、佐藤バーバラ、澤田晴美、全美星、須藤遙子、孫安石、孫江、高柳信夫、竹村民郎、竹本寛秋、田中比呂志、陳継東、陳捷、陳力衛、寺澤行忠、十重田裕一、中川成美、中嶋隆、野網摩利子、橋本行洋、林正子、兵藤裕己、平野健一郎、福井純子、増田周子、松田清、真鍋昌賢、村田雄二郎、目野由希、リース・モートン、茂木敏夫、安田敏朗、安野一之、八耳俊文、山本美紀、吉岡亮、李梁、多田伊織、依岡隆児、稲賀繁美、劉建輝、小松和彦、磯前順一、フレデリック・クレインス、郭南燕、堀まどか、金哲、韓東育

〔海外共同研究員名〕

馮天瑜、黄克武、麻国慶、章清、王中忱

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一一年一月一九日

多田伊織「現代印度学における『日本語表現』の獲得―概念規定をめぐる―」

目野由希「文化外交と社交の概念の相関・編成―戦前期国際ペンクラブにおける矢代幸雄・野口米次郎―」

〈第五回研究会〉

二〇一二年一月二日

平川祐弘「大和魂の概念」

ジョン・グリーン「神道という物語…吉田神道から神社本

庁まで」

二〇一二年一月二日

根川幸男「移民子弟教育と『日本精神』―ブラジル日系移

民を事例として」

秋山かおり「ハワイの日系人史における『祝い』の概念の

変容…ボン・ダンスを中心に」

〈第六回研究会〉

二〇一二年三月一七日

山田有希子「ヘーゲル哲学における生 (Leben) と死 (Tod)

の概念について」

鈴木貞美「エネルギー概念と二〇世紀への転換期の生命

観」

二〇一二年三月一八日

依岡隆児「旧制高校はなぜ『アルト・ハイデルベルク』になつたのか」『青春』と『郷愁』の概念をめぐる」

新大陸の日系移民の歴史と文化

(研究代表者 細川周平、幹事 瀧井一博)

〔共同研究員名〕

赤木妙子、アンジェロ・イシ、桑井輝子、栗山新也、小嶋茂、佐々木剛二、滝田祥子、日比嘉高、松岡秀明、物部ひろみ、森本豊富、守屋友江、柳田利夫、渡会環、根川幸男

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一一年一月二六日

小嶋 茂「海外移住と移民・邦人・日系人」

栗山新也「戦前における沖繩移民の芸能社会史―移動・生

活・芸能」

自由討論

日記の総合的研究

(研究代表者 倉本一宏、幹事 佐野真由子)

〔共同研究員名〕

蘭香代子、有富純也、池田節子、石田俊、板倉則衣、井原今朝男、今谷明、磐下徹、上島享、上野勝之、小倉久美子、小倉慈司、尾上陽介、久富木原玲、小嶋菜温子、佐藤全敏、佐藤泰弘、古藤真平、下郡剛、シャバリナ・マリア、末松剛、菅原昭英、瀬田勝哉、曾我良成、富田隆、中町美香子、中村康夫、中西和子、名和修、西村さとみ、畑中彩子、藤本孝一、堀井佳代子、カレル・フィアラ、松藺斉、松田泰代、三橋順子、三橋正、森公章、山下克明、横山輝樹、吉川真司、吉川敏子、吉田小百合、近藤好和、荒木浩、稲賀繁美、井上章一、笠谷和比古、鈴木貞美、榎本渉、瀧井一博、マルクス・リュッターマン、門脇朋裕

〔海外共同研究員名〕

呉海航

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一一年一〇月二八日

特別展示「近衛家陽明文庫 王朝和歌文化一千年の伝承」

展覧

名和 修「御堂関白記」

討議

〈第四回研究会〉

二〇一一年二月一七日

打ち合わせ

呉 海航「『翁同龢日記』からみた清末大臣の政治的運動

について」

堀井佳代子「儀式書における日記の利用―『西宮記』相撲

勘物の検討―」

二〇一一年二月一八日

多田伊織「地震・黒船・明治維新―幕末の若き漢方医学生

小島尚綱の日記『日新録』」

上野勝之「古記録における宗教習俗の記載」

三橋 正「古記録の書写と活用―古記録文化を理解するた

めに―」

〈第五回研究会〉

二〇一二年二月一八日

打ち合わせ

加藤友康「平安貴族による日記利用の諸形態」

二〇一二年二月一九日

佐藤 信「出土した古代の曆史料をめぐって」

松田泰代「日本十進分類法における『日記』という言葉の

概念受容史」

基礎領域研究

韓国語運用の基礎／応用（継続）

代表者 松田利彦

概要 研究その他の業務で韓国語を必要とするものに対し、会話、読解、聴解の習得を目指した授業を行う。

近世風俗未公刊資料解説（継続）

代表者 早川聞多

概要 センター所蔵の近世風俗資料の解説および変体仮名の読解演習を行う。

古文書研究（継続）

代表者 笠谷和比古

概要 前近代の草書文字で記された古文書や日記・記録などの読解を行う。

フランス語運用の基礎／応用（継続）